

# SDGsを小説で読んでみよう！

今、SDGsの17の目標は、色々ところで取り組まれています。自分の生活の中で取り組んでいる人もいることでしょう！

しかし、実際にその立場や現状に置かれてみないと、本当のことを理解するのは難しいことなのだと思います。

それを少しでも理解するために、【小説】の力を借りてみるのはどうでしょう？

小説の登場人物となることで、世界で起きている問題を少しでも自分事として捉えることができるといいな、と思います。



貧困をなくそう



『むこう岸』  
安田夏菜（講談社）  
「貧しさ・豊かさ」とは何かを考えたせられる。



『15歳、ぬげがら』  
栗沢まり（講談社）  
貧困がもたらす子供への影響を目的の当りにする作品。最後は希望へとつながる。



『両手にトカレフ』  
ブレイディみかこ（ポプラ社）  
実際にイギリスで起きている子供の貧困。イギリスに限ったことではなく、世界が抱える問題であることを知る。



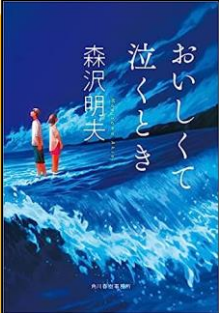
飢餓をゼロに



『生きるぼくら』  
原田マハ（徳間書店）  
米づくりを通して、自分の生き方を見直す青年の物語。



『護られなかつた者たちへ』  
中山七里（宝島社）  
飢餓とそれを支える社会制度への怒りが招いた殺人事件が起こる。



『おいしくて泣くとき』  
森沢明夫（角川春樹事務所）  
無償で食事を提供する子ども食堂。子どもを取り巻く社会の問題が浮き彫りとなる作品。



すべての人に健康と福祉を



『あん』  
ドリアン助川（ポプラ社）  
『ハンセン病』。実際にあった病気とその偏見。



『目の見えない白鳥さんとアートを见に行く』  
川内有緒（集英社インターナショナル）  
インクルーシブ（誰も排除しない）な社会とは？。健常者も障がい者も区別なく、共に学べる社会を。

このページの本は『おいしくて泣くとき』（9月入荷予定）以外は全て和田中の図書室にあります。



質の高い教育をみんなに



『with you』  
濱野京子（くもん出版）  
ヤングケアラー。「わたしがいいいと、うちがこわれちゃう。」



『イクバルの闘い』  
フランチェスコ・ダダモ（鈴木出版）  
児童労働。パキスタンのじゅうたん工場で起きた実話。



ジェンダー平等を実現しよう



『水を縫う』  
寺地はるな（集英社）  
手芸が趣味の男子学生。「男らしさ」「女の子らしさ」とは？



『空はほいまぼくらふたりを中心に』  
村上しいこ（講談社）  
トランスジェンダーの少年と彼を取り巻く仲間の物語。



『九時の月』  
デボラ・エリス（さ・え・ら書房）  
15歳の少女同士の恋愛と、その二人に対する偏見・差別といった社会問題をテーマにした作品。